

世界で活躍する
メイドイン江別

特注品の 冷凍・冷蔵 ショーケース

海外有名ホテルの
スイーツショーケース



ウチは特注品の一品ものばかり。だから設計図も原寸大。こうするとピッタリ合います！

北冷製作所 代表取締役社長
吉田 喬一さん

▲海外の有名ホテルへ納入した円形ショーケース。これだけの曲面で構成された円錐型の冷蔵ショーケースが作れる会社は世界でもごく少数。北冷の技術の結晶だ。

設計から完成まで
14日間で制作

「うちはメーカーさんがお手上げと言ったものを引き受けています。メーカーさんが自社で製造するのは、ラインで大量生産できる規格が決まったものなので、カタログに載っていない特注品の製造依頼が当社に来ます。他社ブランドの製品を製造する、いわゆる「OEM」で、日本に3社ほどある会社の1社です。道内では当社だけなんです」と話すのは吉田喬一さん。主に店舗の売り場で使用される特注品の冷凍・冷蔵のショーケースを設計から製造まで一貫して行う株式会社北冷製作所の代表取締役社長だ。北冷の製品の9割ほどがOEMで、納入先は道外が7割、道内2割で、海外1割といった割合だ。納入先は百貨店が多く、スーパーは少ないそう。設計から完成まですべて自社で行い、全15工程を14日間で制作完了するのが強みである。店舗の冷凍、冷蔵ショーケー

複雑な構造をした冷蔵ショーケース

実は地味に
すごい！

関東の某百貨店に納入され、デパ地下で活躍しているこちらもメイドイン江別。これだけ複雑な構造を持った冷蔵ショーケースは特注品ならではの、限られたスペースを有効活用する工夫が随所に見受けられる。



手前に傾斜した鏡で奥行き感を演出。

棚板は位置調整が可能な構造だ。

陳列面の高さが違うため、冷気の吹き出し口が左右で違う点に注目！

総ガラス張りの冷蔵ショーケース。

オープン構造の冷蔵ショーケース部分。

円山動物園でも活躍中！



円山動物園の 液晶案内板も 北冷製品

動作する温度の幅が狭い液晶モニタ。屋外でも安定して情報を表示するため、ケース内を夏は冷やし、冬は暖めている。前例がないため、ゼロから試行錯誤しながらの製作だったそうだ。



1. 組立て途中のショーケース。大量生産の工場と違ってラインがなく、手作業で行われている。2. 冷蔵ユニット配管の溶接工程。もちろんすべて手作業だ。



ショーケースのフレームは木製なので、工場内には木工所のような一角も。



ス以外では、移動販売車の冷蔵陳列棚や、研究機関の試験棟で使用される冷蔵庫なども手がけている。珍しいものでは、円山動物園のデジタル掲示板も北冷製作所が製作したものだ。「江別には素晴らしい会社が多いですよ。当社は近年、メディアに取り上げられることが増えたので、ここ5〜6年で地元企業の結びつきが増えました。」と語る吉田社長は「私たちは断ることをしませんが、「できません」は言いません。常にどうやってやらざるかを考えてものづくりをしています。今後他社にはできないものを作っていきたいですね」と語る。常に前向きで攻めの姿勢を崩さず、世界を相手に物造りを続ける北冷製作所が、江別にある。